

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月24日現在

機関番号： 10101

研究種目： 基盤研究（B）

研究期間： 2009～2012

課題番号： 21330171

研究課題名（和文）

近代沖縄における教育実態史に関する基礎的研究

研究課題名（英文）

Fundamental study on a history of educational actual condition in modern Okinawa

研究代表者

近藤 健一郎 (KONDO KENICHIRO)

北海道大学・大学院教育学研究院・准教授

研究者番号： 80291582

研究成果の概要（和文）： 沖縄県教育会の機関誌として発行され続けた『沖縄教育』の総目次および索引の作成と解説執筆を本研究の基盤とし、以下の諸点を明らかにした。①沖縄県教育会の組織および事業の一端である郷土博物館設立や九州沖縄八県連合教育会への参加状況を明らかにした。②標準語や唱歌の教育実態に注目し、県庁、教育会、各教員の関係性とその齟齬を明らかにした。③明治期以来の資料を継承してきた、ある小学校の所蔵資料の整理紹介を行った。

研究成果の概要（英文）： This study made up the total table of contents and a description of the “Okinawa Education”, since 1906 till 1944, as a bulletin of the education association in Okinawa prefecture. This Study carried out based on these, and the following points were clarified.

Firstly, projects of the education association were clarified. For example the association established the local museum in Shuri castle in 1936.

Secondly, it was clarified that an educational actual condition on the national standard language and songs focused on relationship and disagreement among prefectural office, education association and teachers.

Finally, it was shown that the list which a certain elementary school possessed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2012年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
総計	8,200,000	2,460,000	10,660,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 教育学、教育学

キーワード： 近代沖縄、沖縄県教育会、府県教育会機関誌、標準語教育、唱歌教育、郷土博物館、学校所蔵資料、九州沖縄八県連合教育会

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、従来「同化教育」「皇民化教育」と概括されてきた近代沖縄における教育政策およびその実態について、地域のなかの学校という視点をもって、学校・教室の水準での「教えと学び」の具体像を解明することをめざす研究の一環である。

研究代表者は、琉球処分から沖縄戦時下に至る近代沖縄（1870年代から1945年）における教育政策とその実態を通史的に解明してきており、その成果を『近代沖縄における教育と国民統合』として出版した（2006年）。それを土台としてさらなる教育実態の解明をめざし、基礎史料でありながら散逸の著しい沖縄県教育会機関誌『沖縄教育』（1906年～1944年）の可能な限り悉皆的に収集していた。

この研究では、『沖縄教育』をはじめとする諸史料の収集、整理を進め、教育会の組織実態への注目を媒介として沖縄県庁による教育政策と学校・学校教員の緊張関係を明らかにする点、また具体的な地域と学校とのかかわりに注目するなかで教育実態を把握しようとする点で、研究代表者・研究分担者の成果を含むこれまでの近代沖縄教育史研究を深化発展させることを意図していた。

### 2. 研究の目的

本研究は、沖縄県教育会機関誌『沖縄教育』をはじめとする諸史料を収集、整理し、近代沖縄の通史的な展望を志向して、以下の四点を中心的な課題として解明するものである。

- (1) 教育政策が学校・教室へと浸透する、あるいは浸透しない際の基盤となると考えられる、組織としての沖縄県教育会、また同会の事業について解明する。なお同会は、1890年代以降、九州各県の教育会との定期的な会合に参加しており、その九州沖縄八県連合教育会にも注意を払う。
- (2) 教育実践の具体像を教科や教師に焦点をあてて解明する。教科では国語、唱歌、修身、公民に、教師では島袋源一郎、宮良長包に注目する。
- (3) ある小学校および島に注目して教育実態を解明する。久米島に設置されていた四校のうち、明治期以来の史料の残されている久米島尋常高等小学校、仲里尋常高等小学校に注目する。
- (4) 沖縄教育の実態解明を琉球という視野で把握することを展望して、奄美教育史の史料収集に着手する。

### 3. 研究の方法

- (1) 本研究課題は、沖縄県教育会の組織とその事業について解明すること

を基盤とし、そのうえに教育実態を教科、教師、地域に注目して解明していくという構造をなしている。換言すれば、沖縄県教育会に注目し、教育政策が学校・教室へと浸透する

（あるいは浸透しない）際の系統に関する組織的課題を明らかにしたうえで、学校・教室や地域で展開する教育実態を解明しようという方法をとるものである。両者にはもちろん密接な関係があり、日本教育史を専門とする研究代表者が両者の課題に挑みつつ、さらにそれぞれの専門的検討を加えるべく歴史的な視点と成果を有する専門分野の方が研究を分担することとし、次の表のような研究組織を構成した。

氏名	専門分野	分担
近藤健一郎	教育史	課題全体への関与および研究の総括
藤澤 健一	教育制度	沖縄県教育会、九州沖縄八県連合教育会
武藤 拓也	公民科教育	公民科、修身科、奄美
三島わかな	沖縄音楽史	唱歌科、宮良長包
梶村 光郎	国語科教育	国語科

（そのほかに適宜、研究協力者を依頼する。）

- (2) 本研究の基礎史料は『沖縄教育』、また当時沖縄で発行されていた新聞や雑誌であるが、そのほかに主なものとして、以下の史料の調査収集を継続的に行なう。
  - ① 九州沖縄八県連合教育会に注目するとき、九州各県の教育会機関誌の収集が必要となる。自県からの出席者が報告する連合教育会の議題や様子に関する記事を収集する。
  - ② 沖縄における教育実態の解明にかかわって、沖縄の中学校や師範学校の学友会誌、各小学校の文集等の同時代史料やのちに刊行された記念誌（創立百周年誌等）、また自伝などにより子ども時代を回顧したものなど、「学び」に関する史料収集が必要である。また数多い島袋源一郎の著書や論文の収集も行なう。
  - ③ 久米島尋常高等小学校および仲里

尋常高等小学校の旧蔵史料は、現在、久米島自然文化センターに移管されているものの未整理であるため、史料の整理をしながら撮影を行なう。

(3) 上述のような史料収集を進めながら、「研究の目的」で記したような課題の解明を行なう。やや具体的に述べれば、以下のとおりである。

- ① 沖縄県教育会の定款、総裁・会長や評議員などの組織人事、また会員数と教員数などの基本的事項はもちろん、沖縄県教育会の周辺に広がる沖縄県初等教育研究会をはじめとする多様な教育団体の重層構造を明らかにし、沖縄教育界のなかの沖縄県教育会の占める位置を明らかにする。
- ② 1910～30年代を主な対象として教育実態の解明を行なう。沖縄語を教室・学校で話さないようにする標準語教育方針とそれを具体化する方策を沖縄の言語実態とのかかわりで、また島袋源一郎の郷土教育にかかわる実践（郷土博物館の設立など）やその背後にある彼の郷土研究についてなど、沖縄の歴史や文化にかかわる教育実態を明らかにする。そのほかに、『沖縄教育』に掲載されている修身や公民にかかわる史料の整理に着手する。
- ③ 『沖縄県統計書』や『沖縄県学事関係職員録』などを基本史料として久米島に関する生活や教育に関する基礎的整理を行なうとともに、現在は久米島自然文化センターが所蔵している久米島尋常高等小学校旧蔵資料の調査（撮影）を行なう。
- ④ 奄美教育史に関しては、先行研究の成果を摂取するほか、鹿児島県教育会機関誌の調査に着手する。

#### 4. 研究成果

研究の目的および方法に照らして、本研究の成果は次のようにまとめることができる。

(ただし相互に関連する成果ゆえに、以下の区分も明確に分かれているものではない。)

(1) 沖縄県教育会の機関誌編集体制を明らかにしつつ、その機関誌『沖縄教育』を主な史料として、小学校児童が見学することになる郷土博物館の設立過程、九州各県の教育会と交流しながら高等教育機関の存在しない唯一の県であった沖縄県への官立専門学校の誘致決議を繰り返していたことを解明した。

- ① 会則や予算決算をはじめとする教育会に関する記事の整理によって、沖縄県教育会は、他の府県教育会と

同様に、県知事や学務担当者、師範学校教員を指導者層とし、会員の多数を小学校教員が占めつつも、教員以外の有志も入会していたこと、しかしほとんどの小学校教員が会員となるのは1930年前後からであるという組織構成を明らかにした。その時期には、沖縄県初等教育研究会が沖縄県内の全小学校での研究成果をもとにしつつ、全県的な研究会を年1回開催しているなど、小学校教員は沖縄県教育会のみならず、幾重にも重なる教育関係組織のなかで教育にあたっていたのであった。

また1911年以降教育会事務所に機関誌編集を任務とする幹事1名が置かれ、その人物が単独で『沖縄教育』の編集を続けたこと、それゆえに編集者の独自色が色濃く出ている時期もあったことを明らかにした。関連して、『沖縄教育』の正確な終刊時期やその状況は史料がなく確定できないものの、他府県との比較を含め全国的な出版統制とのかかわりで考察した。

このような教育会の組織や機関誌編集のありようを実証したことは、本研究と並行して行なった『沖縄教育』の復刻（不二出版、2009～2012年、全37巻＋別冊）とあわせて、沖縄教育の歴史的研究へはもちろん、最近注目が集まりつつある教育会の研究への比較的視点を提供するものとしても、実証的貢献は大きいものがあると考えられる。

- ② 沖縄県教育会が1936年に郷土博物館の設立過程において、島袋源一郎が同会の運営にかかわっている時期にのみ他組織と協働しながら開館にむけて進捗が見られたことを明らかにした。そのことをふまえて、1930年代には全国各地に郷土博物館が設けられていることからすれば、沖縄の郷土博物館の特徴は、交易によって繁栄している琉球王国と同時に、古代から日本の一部である琉球・沖縄を見せる展示をしていたことに求められるべきである。このような琉球・沖縄像は、島袋源一郎の郷土研究を反映したものであったことを明らかにした。

今後は、沖縄における郷土教育、郷土研究について、島袋源一郎を中心に追究していくことが課題となる。

- ③ 九州沖縄八県連合教育会は1920年以降毎年度1回に定例化された。そこでは、各県教育会が提起するさ

まざまな議題が論じられたが、1927年以降、沖縄県への官立専門学校設置が決議され続けた。今後は、この決議を沖縄県への高等教育機関の誘致活動のなかに位置づけて行くことが課題である。

- (2) 沖縄における教育実態について、とくに標準語教育に注目して以下のような解明を行なった。これまでの成果にこれらもあわせることにより、研究代表者による近代沖縄における標準語教育史の通史的集成は近い将来に可能なものとなりつつある。そのほかにも公民科や修身科にかかわる『沖縄教育』記事の整理も行なったが、それらを用いた成果の公表は今後の課題に属することとなった。

- ① 1915年の沖縄県庁から沖縄県教育会の諮問に対する「普通語ノ励行方法答申書」を通じて、1910年代半ばの沖縄における標準語教育の実態を解明した。答申は、沖縄社会においては標準語を話すことが「冷笑」の対象であることを自覚したうえで、家庭や地域社会に対し学校が行なう標準語励行の妨害をしないことを要望していた。標準語励行を進めることは学校の役割であると認識し、教員自らが手本となり、「方言使用者」に対する「訓戒」と「普通語使用児童」への「称揚」を根気強く続けること、そして児童生徒に自発的な標準語使用を求めた。沖縄県庁は「普通語励行ノ方法」について諮問しており、教員たちに求められたものは「普通語励行」の是非ではなく、あくまでもその具体策であった。

- ② 『沖縄教育』や沖縄県初等教育研究会の刊行物などに依拠して、1930年代半ばの標準語教育政策とそれに関連する実践および実態を解明した。1936年7月、沖縄県庁は沖縄人の精神作興の一環として標準語教育とその励行を政策課題とし、県知事の訓示とともに学校長会議に諮問した。学校長会議はそれを議論、答申し、実践に取り組みうとするが、そこには標準語が未熟であることから生じる沖縄人の損失をなくし、差別から脱却し、沖縄の振興を図ろうとする意図が込められていた。そのような齟齬をはらみつつ、この標準語励行は国民精神総動員運動およびそれ以降につながっていった。

- (3) 久米島自然文化センター（現・久米島博物館）が所蔵する沖縄県久米島町立久米島小学校が保存してきた

学校資料の目録とともに、その通覧に基づき解題を発表した。学校日誌をはじめとするそれらの資料整理を通じて、同校に1911年～1916年に勤務していた本山萬吉が同校在職中に作詞作曲した「久米島めぐり」という唱歌実践を、『島尻教育部会二十五年記念誌』（1912年）などの史料も活用しながら、同校の歴史および本山萬吉のライフヒストリーに位置づけることができた。すなわち、同校も本山萬吉も、それ以前からまたそれ以後も唱歌を用いた教育実践を意識的に行なっていたことが明らかとなった。

なお本山萬吉は、1910年の佐敷小学校長であり、同校の火災で御真影などを焼失したことにより懲戒免職となった人物である。今後はそのような関心からのライフヒストリーの解明がなされるべきである。

- (4) 奄美教育史に関して、多くはないが鹿児島県教育会機関誌に掲載されている記事の収集を行なったほか、奄美大島教育会館が所蔵している史料を閲覧した。それらを用いての成果発表には至らなかった。目録作成などにより史料紹介を行なうことが今後の課題である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5件）

- ① 近藤健一郎、北海道帝国大学に入学した沖縄出身者、北海道大学大学文書館年報、査読有、第8号、2013年、1-16頁。  
[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52330/1/ARHUA8\\_001.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52330/1/ARHUA8_001.pdf)
- ② 近藤健一郎、アジア太平洋戦争下における府県教育会機関誌の「休刊」と敗戦直後におけるその「復刊」、地方教育史研究、査読有、第33号、2012年、105-126頁。
- ③ 近藤健一郎、1930年代中葉の沖縄における標準語教育・励行政策とその実態、ことばと社会、査読有、第13号、2011年、148-171頁。
- ④ 三島わか、近代沖縄における五線譜の受容、沖縄文化、査読有、第45巻第1号、2011年、94-128頁。
- ⑤ 近藤健一郎、納富香織、久米島自然文化センター所蔵（久米島町立久米島小学校旧蔵）近代久米島小学校資料目録および

解題、久米島調査報告書(3)、査読無、  
2011年、15-32頁。

[学会発表] (計 4件)

- ① 近藤健一郎、島袋源一郎論研究序説、沖縄文化協会、2012年7月15日、沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市)。
- ② 近藤健一郎、三島わかな、阪井芳貴、宮城晴美、藤澤健一、近代沖縄における「同化」をめぐる研究のこれまでとこれから—沖縄県教育会機関誌『沖縄教育』復刻を共有財産として—、復帰40年沖縄国際シンポジウム、2012年3月31日、早稲田大学(東京都新宿区)。  
<http://okinawasympo.files.wordpress.com/2012/11/houkokusho20122.pdf>
- ③ 近藤健一郎、第二次小学校令下の沖縄教育制度、日本教育政策学会、2011年7月3日、琉球大学(沖縄県西原町)。
- ④ 近藤健一郎、沖縄県教育会機関誌『沖縄教育』(1906~1944年)の編集体制、教育史学会、2009年10月10日、名古屋大学(愛知県名古屋市)。

[図書] (計 3件)

- ① 近藤健一郎、沖縄県教育会附設郷土博物館の設立過程、クライナーヨーゼフ編著 日本民族学の戦前と戦後、東京堂出版、2013年、105-126頁。
- ② 近藤健一郎、近代教育の導入、沖縄県文化振興会史料編集室編 沖縄県史 各論編5 近代、沖縄県教育委員会、2011年、189-209頁。
- ③ 藤澤健一、近藤健一郎、三島わかな、梶村光郎、納富香織、照屋信治、沖縄教育復刻版 別冊、不二出版、2009年、全330頁。

[その他]

- ① 藤澤健一、近藤健一郎、照屋信治、発掘された沖縄教育史料、沖縄タイムスに連載(全8回)、2012年2月。
- ② 近藤健一郎、「久米島めぐり」の歌をめぐる教育史—久米島自然文化センター所蔵(久米島小学校旧蔵)資料を中心に—、南島文化研究所研究成果報告会、於久米島自然文化センター(沖縄県久米島町)、2011年2月。
- ③ 藤澤健一、三島わかな、沖縄教育復刻の意義、沖縄タイムスに連載(全3回のうち各1回)、2009年10月。
- ④ 近藤健一郎、三島わかな、沖縄教育復刻に寄せて、琉球新報に連載(全8回のうち近藤2回、三島1回)、2009年10~12月。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤健一郎 (KONDO KENICHIRO)  
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授  
研究者番号: 80291582

(2) 研究分担者

藤澤 健一 (FUJISAWA KENICHI)  
福岡県立大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号: 00301812  
武藤 拓也 (MUTO TAKUYA)  
国士舘大学・文学部・准教授  
研究者番号: 50290664  
三島 わかな (MISHIMA WAKANA)  
琉球大学・大学教育センター・非常勤講師  
研究者番号: 60622579  
梶村 光郎 (KAJIMURA MITSURO)  
東邦大学・理学部・教授  
研究者番号: 70255016

(3) 連携研究者

なし